令和元年度　第１回　川崎市小学校教育課程研究会　報告書　南部

分科会名 図画工作科 令和元年６月１２日（水）	会　場　川崎市立川中島小学校 助言者　川崎市立小学校図画工作科研究会会長 中臣　信丈 総合教育センター　指導主事　岩崎知美 授業者　川崎市立川中島小学校　魚住　久美子 川崎市立川中島小学校　眞砂野　礼 司会者　川崎市立今井小学校　三浦　憲司 記録者　川崎市立末長小学校　石井　結実子 世話人　川崎市立川中島小学校　田中　雄太 出席者数　８７　名

１　提案の概要

３年「まほうのとびらをあけると」　Ａ表現（２）絵に表す

自分がイメージしたとびらととびらの向こうの世界を絵に表す。これまで経験してきた材料・用具(水彩絵の具、パス)を使い、それを生かした表し方をすることで自分の表し方に自信をもち、工夫できるようにする。さらに、用具には油性ペンも加え、選択肢の幅を広げることにより、これまでに経験していなかったような表し方を見つけたり、新しい工夫が生まれたりするようにする。

５年「ここにMYアート～思いを身近な物で～」Ａ表現（２）立体に表す

身近な材料を使って学校に置くためのオブジェを作る。学校のそれぞれの場所の感じを生かしながら立体に表す活動を通して、思いを形に表すことの喜びや良さを味わえるようにする。また、自分の思いに合わせて材料を選んだり、形や色を工夫したりして活動に主体的に取り組んでいけるようにする。身近な廃材を主材料として扱うことで、自由に発想を広げられるようにし、自分たちの手で廃材を作品に生かすことができたという喜びを感じられるようにする。

２　研究協議の概要

３年【グループ協議】

・ワークシートの活用が有効的だった。子どもの発想を担任が把握できる。
・掲示や資料が子どもの活動のヒントになったのではないか。
・扉が発想のきっかけになっていた。
・いろいろな用具を自由に使って絵に表していたが、表す上で何か制限はあったのか。
→これまでの技法をより豊かに使ってほしいという思いがあったが、新しい技法を習得させることも必要だった。ほかの描画材を使えば細かく表現できるところもあったと思う。
・絵の具の技法の指導はどうしていたか。
→クレパス、絵の具の指導は２年生までにやってきたこと。３年生になって新しく技法の指導はしていない。
・扉を手元に置いて活動している児童と、離れたところに置いている児童がいた。
→近くで見ながら活動してほしかったが、机がせまい。床に置くことだけはさせたくなかった。器用な子は２枚並べていた。乾燥棚に置いておいてもいいよ、黒板に貼ってもいいよ、と声をかけていた。
・日常的な活動が、子どもの表現につながっていた。
・扉の形の多様性。扉と中の世界のつながりがこの授業では大切だったのではないか。

【指導講評】中臣校長先生

・想像することが苦手な子どもにとって、とびらというアイテムが有効的。
・もともと好きなことをかいている子が多いため、のびのびとした作品になる。本当に想像を膨らませているのか。
・新しい想像性を生み出せるような手立てを打たなければいけない。これが**深い学び**になる。
・扉から見えているのは「世界」であってほしい。これに有効的だったのはワークシート。さらに使い方を工夫すればなおよい。

・扉の向こうにある世界がたとえ見えない部分があっても、扉の先の世界に行くためのものなのでよいのではないか。
・パスや絵の具の使い方が参考作品に引っ張られがちになっていた。これらの用具の使い方の集大成ならば、筆とパスを場面によって全員が使い分けることができるよう、手立てを打つ必要がある。

５年【グループ協議】

・身辺材を使った意図は？
→子どもたちにとって身近なもので捨ててしまうものだが、自分の手で面白く楽しく変身させることができるんだと感じてほしかった。
・子どもが迷いなく自分の思いをもって取り組めていたが、これまでの手立てや取組みが知りたい。
→自分で思いを膨らませる時間を十分にとった。また、子どもと対話しながら思いを引き出していった。前題材(鑑賞)で街中にあるパブリックアートを写真に撮り、友達に紹介する活動を通して、形や色に対して発想を膨らませられるように耕した。
・パブリックアートに触れさせる題材の具体的な活動内容は？
→ゴールデンウィーク中に、パブリックアートを見つけて写真を撮り、ワークシートにまとめた。それを使って友達と紹介し合う活動を行った。
・道具の使い方の掲示物がよかった。安全に配慮できていた。相互鑑賞、友達とのかかわりが本時ではあまり見られなかったが普段はどうか？
→自分の作品を作りながら友達の作品を見ている様子がみられたので、それが相互鑑賞につながっていた。
・見てみたふせんによって子どもたちの変容はあったか？３つの視点にした理由は？
→形や色については指導要領掲載事項であり、友達の作品についての視点は、友達に褒めてもらえるとうれしいから。
・活動中に子どもが悩んでいた時、どのようなタイミングでどのような声をかけているか？
→発想については「どうしたいの？」と聞き、教師の思いの押しつけにならないようにした。
また、「ヒントコーナーを見てみて」「今までの活動を思い出してみて」とできるだけ自分で解決できるようなアドバイスをする。個々の児童の実態に合わせて声かけの仕方を配慮した。
・見てみたふせんと振り返りをどのように書き分けさせているか？
→ふせんは３つの視点に絞って書いたが、ふり返りは、活動全体を通して感じたことやふせんを交流した後に感じた事等を書かせている。

【指導講評】岩崎指導主事

・毎時間の授業のねらいについて明確に計画が立てられていてよかった。
・子どもの表したい思いが強かった。「これでいいですか？」と聞く児童の姿はなかった。
・ポートフォリオ(スケッチブック)が有効的だった。
・共通事項を取り入れていて、子どもたちが色、形に触れられていた。
・身辺材から発想することと、場所から発想することの２方向の活動が混ざり合っていて難しかった。
・創造的な技能について→材料がたくさんあることによって、切ったり、つなげたりという様々な技能が必要だった。
・見てみたふせんの活用→色、形以外にもバランスはどうか等、高学年らしい視点をさらに取り入れるとよいのでは？

令和元年度　第１回　川崎市小学校教育課程研究会　報告書【北部】　鑑賞部

分科会名 図画工作科 令和元年６月５日（水）	会　場　川崎市立　宮崎小学校 助言者　川崎市立　川崎小学校校長　中臣　信丈　先生 川崎市総合教育センター　岩崎 知美 指導主事 授業者　川崎市立　宮崎小学校　小野田　浩士　先生 司会者　川崎市立　百合丘小学校　佐野　加寿子　先生 記録者　川崎市立　新作小学校　草薙　寛子　先生 世話人　川崎市立　宮崎小学校　大隈　慶彦　先生 出席者数　９８　名

１　提案の概要

題材名「のぞいてみよう　彫刻の世界」Ｂ鑑賞

２　研究協議の概要

①　〈グループ協議〉「手だて」が「深い学び」につながっていたか。

（１）　能動的に鑑賞をしたくなるような作品との出合わせ方
（２）　材質の特徴をとらえやすくするための比較対象のある出合い
（３）　様々な角度から立体作品を鑑賞できるような手だて
（４）　いつもと違う雰囲気での作品展示　　の観点から・・・

②　〈全体協議〉

・お題について。（今井小　田口先生）

「好きなアングル」と言われた時、どのような角度のポイントで見たら良いのかが「見てみてカード」によってわかりやすかった。角度の視点は、子どもたちは共有できていたのかどうか。
→どうやったら可視化できるかを考えた。また、作品の数を１２に増やしたのは、いろんな作品を並べれば、子どもの中にいろいろな出会いが増えると考えた。作品が多いという指摘もあるが、これは児童の実態によると考えた。言葉が苦手な児童も、カードを置くだけで意思表示になると考えた。

・想いを言葉にすることについて。また、作品は借りられるか。（小倉小　大貫先生）

想いを言葉にすることに慣れているように見えたが、普段からの取り組みがあったのか。
→鑑賞を楽しく、好きに感じることができるよう、実践をしてきた。作品から感じることに、間違いはない。何を感じても自由。観点を分けることにも注目した。

・作品と活動が多く感じたが、そのねらいは。この作品を選んだ理由は。（向丘小　藤井先生）

→育てたい力を目指し考えた。（①立体作品ならではの見方を養う。②素材の良さを感じる力。③抽象作品の面白さ、表現につなげる力。）アングルや、アルミニウムなど、狙いに沿って楽しみながら活動できていたように思う。また、手渡しでプリント配らず、木の作品を意識的にみることができるよう、フロア中央の作品近くに用紙を取りに来るスタイルで配布した。

・題名をつけるという「お題」について（新城小　鈴木先生）

→２番目のお題でアングルを追求したことで観点が広がることを狙ったが、効果が生かしきれなかったとも思う。作者の紹介を最後にしたが、活動の最中に作者の話を聞くことも有効だったかもしれない。

③　〈作者の言葉〉（小野田勝謙氏）

子どもたちと接して、とても嬉しかった。大人と異なり、子どもたちは作品を見て、自分たちが思っていたところと違うところに気づき、感じていた。子どもたちの無限の力を感じた。

④　〈指導講評〉（川崎小学校校長　中臣信丈先生　川崎市総合教育センター　岩崎知美指導主事）

話し合いを通して、造形的な見方・感じ方が広がっていたかを考える。ものを見ることで、自分の人生が豊かになる。深い学びというのは、学校で完結するものでなく、自分の生活に豊かに広がっていく。

日常生活は立体だらけ。せっかくの立体なのに、正面からしか見ていない。なので今回の授業は、とても意味のある学びだった。見る角度によっていろんな見方ができる小野田さんの作品が、とても良かった。

本当に素晴らしい授業だった。①視点を持たせる。学年に応じた視点となっていた。②ワークシートがよかった。罫線がなく、言葉で表現できないことを、図や絵で表していた。③カードの視覚化がよかった。鑑賞の中で、見方や感じ方の力がつく。今回の授業は図工にとどまることなく、キャリア・在り方生き方教育にもつながるものとなっていた。